

朱門明月武昌秋。恩澤高兼王露流。今夜微臣是何幸。擎書眞似在瀛洲。

深山良 拜上

仄閑深山良。初召世子府。奉命讀河間獻王傳。兼有應教作。余不堪欣躍。乃步韻礎以志喜云。

聞道朱門明月流。流光遙接北瀛洲。寶書繙出河間好。餘韻偏思武野秋。

禮 幹

凌新君辱次僕應教韻見寄。不堪感荷。敬依前韻遙奉答。

巍々邸第枕江流。紅蓼風分白鷺洲。絃誦乘涼聲不斷。當知清切府中秋。

深山良

一、仲冬夢得の句
仲冬上旬夢得の句。

冬籠る君か家居に梅咲て

故人小瀬復庵良正或時の夢に老翁あり問て云。風雅と華者と同じきや。良答て曰。無有異事。翁云。異ありと。一首を唱て云。

雪隠のうちにもながめふたつあり月に匂へる梅したし臆一、正五九月といふ事

俗間に正五九月と稱して、神祠佛堂へ詣づることあり、何の據あることを不知。此頃後漢書の南匈奴の傳を見るに有言曰。匈奴俗歲有三龍祠。常以正月五月九月戌日祭天神。蓋夷俗事也。

一、元文六年御歌始御製
元文六歲正月御會始御製。

天地のやはらぐ春にやまはいま雪も消えつゝ霞たな引く
一、寛保改元の出典

今茲二月二十七日夜改元寛保。翌廿八日夜皇子降誕。國語云。寛所以保本也。寛則得之。

從五位下大藏大輔菅原朝臣長香 撰

一、物故の語の出典

人死曰物故。高堂隆曰。聞之先師物無也故事也。言無復所能於事也。見于三國志注

一、小倉中將來書と返翰(一)

未接光儀候へ共一翰令啓候。彌以與居可爲平安、欣幸不少候。渴望の餘乍如何、此度拙作一首寄贈申候。高和手書候て給り、外に近作詩文少々録示可給候。珍藏不過之存候。

且又白雲樓集とて其元の高集有之由久々承及候。最早藏板にも相成候や、寫本の様にも承候。是又懇望に候間、いか様の草稿にも不苦候條、若々可成事にて一覽被許候様に偏に頼入候。愚覽相濟候はゞ無滯可令返璧候。高作共所望の事、何卒御點頭頼入候。千萬欣躍可令存候。

一、室新助詩文集數卷有之由、此節版布にも相成候や、不佞鳩巢文筆所望存候へ共未得候。其元には從學被成候由承候條、何にても詩文手書の物有之候はゞ、一二紙御贈惠可爲本望候。且詩文の小冊物にても有之候はゞ、迎の儀に御見せ可有候。寫返納可申候。得隨望蜀慚愧候。得御許容候はゞ別て悦可申候。鳩巢男儀物故、只今幼孫の代の由承及候故、室家へは難申試候。萬々於許容は大慶鳴謝不盡可存候。景仰以書申通候。事亮察可預矣助候。當期回翰候。不宜。

五月七日

副啓。本書に申述候件々何卒御許容候様に偏頼入候。且又稻若水著候庶物類纂重寶成物のよし、若水辭世以後覺仲と申門人相補候由承候。類本も有之候や、梓行無之由承候。若水著に食物傳信と申一書有之かと存候。覺仲方に所持有

之や、類纂も彼人草本所持と察入候。乍序相尋申候也。憐爾高標思不群。定知講學擬河汾。綵毫花發漢時賦。白雪調高唐後文。雖昔樂浪驚傑出。祇今阿每倚名聞。北風海上波濤穩。莫惜瑤華向我分。

丈人正徳辛卯年與韓客唱和故句云。

右寄贈賀藩青浚新老詞宗。寛保元年夏五上浣

右亞將宣季具草 小倉右中將 年三十七

此度從亞將軍様本月七日尊書、大森三郎兵衛傳達、同念三日到來拜誦仕候。誠以不存寄御事、忝仕合奉存候。私儀辛卯之歲在京の内、與韓人唱和の事御承知御下向被成下、殊更高作一律御惠投忝奉拜吟候。鄙和指上候様に蒙仰候。望外の至忝奉存候。高家御大作等可奉讀儀、其恐有之のみならず、素性詩文章至て拙陋、不足以觀事に御座候。當時韓客來會仕候には、歌詩唱和無之候はねば難成故事の旨、申聞候者有之、俄に其工夫仕、稍々右の程にも結構仕候。從來廢却彌以笑供迄に御座候故、近作とても無御座候。追て乍鄙劣綴得候はゞ可奉備高覽候。先早速御請申上度如斯御座候。一、鄙文白雲樓集と號し候一集有之様に御聞被成候。草稿